

実践記録（小2・国語）

1 単元 うれしくなる言葉

2 ねらい

タブレット端末を用いて話の順序を考え、聞き手を意識して話すことができるようにする。

3 手立て

・ 5W1Hカード

「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」が書かれたカードを用いることで、5W1Hを意識して、順序を考えることができるようにする。

・ 並べ替えゲーム

ゲーム活動を通して聞き手の集中力を高めるとともに、話し手が聞き手に話が伝わっている実感を得ることができるようになる。

4 指導計画（5時間完了）

- (1) 学習の見通しをもつ・・・1時間
- (2) 話の構成を考える・・・3時間
- (3) 発表する・・・1時間

5 実践の様子

時数	主な学習活動
第1時	<p>2年生になってから行った発表活動の振り返りを行った。今までの発表活動を通して、話の内容を順序立てて考えることはできていた。しかし、発表することに集中してしまい、相手に分かりやすく伝える意識をもって話すことができていないことが課題であった。そこで、今回の発表では「相手のことを考えて」という部分を意識して話の順序を考えることにした。最後に単元のめあてを「友達に言われてうれしかった言葉をみんなに伝えよう」とし、協働学習アプリを用いてカード作りを行って行くことにした。</p>
第2時	<p>協働学習アプリを用いて「5W1Hカード」を作成した。多くの児童は、教科書に載っている例を基に、「どんな時に」「だれから」「どんな言葉を言われて」「どう思ったか」の4つのカードを作成していた。また、協働学習アプリで作成したカードをつなげ、どの順番で話すと分かりやすいかについて自分で考えた。A児も教科書の見本を参考に右のようにカードを作成した。順番は試行錯誤を繰り返し、最終的に教科書と同じ順番がよいと納得して決めた。</p> <div data-bbox="938 1227 1378 1547" data-label="Diagram"> </div>
第3時	<p>3～4人での発表を行った。児童には、「友達に聞いてもらい、どんなところが分かりやすかったか、どうすればもっと分かりやすくなるか」について考えることを伝え、聞き手のアドバイスを聞く時間とした。児童は、「どこで言われたかを伝えるといいと思う」「もっといつ言われたのかを詳しく言うといいと思うよ」というように、聞いていて感じたことを伝え合っていた。周りの友達からの意見を聞くことで、自分では気付かなかった改善案を知ることができ、次の時間に伝えることができた。</p> <div data-bbox="938 1630 1378 1982" data-label="Image"> </div>

<p>第4時</p>	<p>再構成の時間とした。第3時で周りの友達に伝える中で気付いた改善点を基に、カードを書き換えたり、カードを追加したりして再構成を行った。実践後のアンケートには、「友達が教えてくれたから、分かりやすい言葉になった」「友達に言われなければ気付かなかった」などの記述があり、第3時の友達のアドバイスを参考にしてカードの内容を直したことがわかった。A児は右のように、「どこで」と「それを言われてこれから自分はどうしたいか」というカードを追加し、「どう思ったか」について書き換えを行っていた。</p>	
<p>第5時</p>	<p>発表の時間とした。前時までに作成したカードを基に、発表を行った。話し手が聞き手に話が伝わっている実感を得るため、聞き手には並べ替えゲームを行った。協働学習アプリで話し手が作成したカードを教師がランダムに並べ替え、発表後に並べ替えられたカードを送って正しく並べ替えるというゲームである。聞き手は全問正解したいという意欲で集中して聞いている様子であった。また、話し手も、聞いてくれているという実感を得ることができるとともに、聞き手が正解してくれるよう一生懸命分かりやすく伝えようとしている姿が見られた。</p>	

6 成果と課題

- 5W1Hカードを用いたことで、どの順序で話すと分かりやすいかを考えることができた。
- 並べ替えゲームをしたことで、話し手も聞き手も相手を意識することができ、発表を聞いて互いに理解しようとする姿が見られた。
- 発表したことに満足し、相手に分かりやすく伝わっているか、相手が理解しているかなどの聞き手にまで意識を向けることができていない児童もいた。
- 2年生という発達段階を考えると、タブレット端末に文字を入力したり、書き込んだりすることは難しく、紙で行う方がよい場面も感じられた。そのため、タブレット端末を用いる場面と、紙で行う場面を使い分ける必要があった。